

第 1 回日本緩和医療薬学会年会

年会テーマ：緩和ケアにおける薬（病院）・薬（薬局）・学（大学）連携の実践
在宅医療を充実させるために
今こそ薬・薬・学連携を考える
薬剤師が現場で本当に functional であるために
基礎科学の重要性を理解する

会 長：鈴木 勉（星薬科大学 薬品毒性学教室 教授）

会 期：2007 年 10 月 20 日（土）・21 日（日）

会 場：星薬科大学
東京都品川区荏原 2-4-41

年会サイト：<http://jpps.umin.jp/conftop.html>

年会運営事務局
（事前） 星薬科大学薬品毒性学教室
〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41
TEL&FAX：03-5498-5627, 5628
事務局長 成田 年（星薬科大学 薬品毒性学教室）

年会本部
（会期中のみ） 星薬科大学 本館第一会議室
〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41

学会事務局
（新入会・年会費等） 星薬科大学薬品毒性学教室
〒142-8501 東京都品川区荏原 2-4-41
TEL&FAX：03-5498-5627, 5628
事務局長 成田 年（星薬科大学 薬品毒性学教室）

（株）毎日学術フォーラム（担当：佐々木）
〒東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 パレスサイトビル
TEL：03-6267-4550
FAX：03-6267-4555
E-mail：sasaki.hiroki@mycom.co.jp

第 1 回日本緩和医療薬学会年会 実行組織委員

■ 年会プログラム委員（五十音順）

委員長	亀井淳三	星薬科大学薬物治療学教室
委員	伊勢雄也	日本医科大学付属病院薬剤部
	伊東俊雅	東京女子医科大学病院薬剤部
	大澤匡弘	星薬科大学薬物治療学教室
	片山志郎	日本医科大学付属病院薬剤部
	葛巻直子	星薬科大学薬品毒性学教室
	国分秀也	北里大学病院薬剤部
	境美智順	あけぼの薬局
	佐野元彦	埼玉医科大学総合医療センター薬剤部
	塩川 満	聖路加国際病院薬剤部
	島田雅彦	星薬科大学薬学教育センター・実務教育研究部門
	鈴木雅美	星薬科大学薬品毒性学教室
	竹内智子	国際医療福祉大学薬学部薬理学分野
	竹内尚子	トライアドジャパン(株)かもめ薬局北里健康館
	辻 稔	国際医療福祉大学薬学部薬理学分野
	成田 年	星薬科大学薬品毒性学教室
	長谷川寛	フロンティア薬局
	宮川和也	国際医療福祉大学薬学部薬理学分野
	宮田茂雄	星薬科大学薬物治療学教室
	宮田広樹	日本医科大学付属病院薬剤部

■ 組織委員（五十音順）

井関雅子	順天堂大学医学部麻酔科学ペインクリニック講座
井上忠夫	聖路加国際病院薬剤部
井上大輔	東京慈恵会医科大学臨床腫瘍部緩和ケアチーム
稲葉一郎	薬局セントラルファーマシー長嶺
上野和夫	薬局メールボックス柳町店
小野秀樹	名古屋市立大学大学院薬学研究科中枢神経機能薬理学分野
加賀谷肇	済生会横浜市南部病院
加藤裕久	国立がんセンター中央病院薬剤部
川村和美	スギ薬局
轡 基治	うえまつ調剤薬局
櫻田 忍	東北薬科大学機能形態学教室
篠 道弘	静岡県立がんセンター薬剤部
下山直人	国立がんセンター中央病院手術部
高濱和夫	熊本大学大学院 医学薬学研究部 環境分子保健学分野
中西弘和	京都桂病院医務部薬剤科
野田幸裕	名城大学薬学部医薬連携実習部門病態解析学 I
橋爪隆弘	市立秋田総合病院外科がん治療支援・緩和ケアチーム
平井みどり	神戸大学医学部附属病院薬剤部
益田律子	日本医科大学千葉北総病院麻酔科
的場元弘	国立がんセンターがん対策情報センターがん情報・統計部 がん医療情報サービス室
余宮きのみ	埼玉県立がんセンター緩和ケア科

■ 年会運営事務局

事務局長	成田 年	星薬科大学薬品毒性学教室
運営委員	伊勢雄也	日本医科大学付属病院薬剤部
	伊東俊雅	東京女子医科大学病院薬剤部
	大澤匡弘	星薬科大学薬物治療学教室
	亀井厚子	ミネ医薬品株式会社
	葛巻直子	星薬科大学薬品毒性学教室
	塩川 満	聖路加国際病院薬剤部
	島田雅彦	星薬科大学薬学教育センター・実務教育研究部門
	鈴木雅美	星薬科大学薬品毒性学教室
	成田道子	星薬科大学薬品毒性学教室
	宮田茂雄	星薬科大学薬物治療学教室

■ 参加者の皆様へ

1. 参加登録について

(1)登録・受付について

・受付時間 10月20日(土) 9:00~18:00

10月21日(日) 7:30~15:00

・本年会に参加される方は、必ず事前あるいは当日に登録手続きをして頂きます様、お願い致します。

・登録された方に発行させて頂くネームカード(登録証)は、再発行は致しませんのでご注意ください。

(お忘れになった場合や紛失された場合には再登録手続きが必要となります。)

・年会期間中、会場内ではネームカードを常時ご着用下さい。なお、ネームカードホルダーを、本館受付にてご用意いたしますので、ご利用下さい。

(2)年会登録費

	事前登録	当日登録
学会員(一般会員・支援会員)	6,000円	8,000円
非学会員	8,000円	10,000円
学生(会員・非会員)	3,000円	4,000円

(3)懇親会

日時:10月20日(土) 19:30~

会場:五反田ゆうぽうと 7階「重陽」

(〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-4-13 Tel:03-3494-6339)

	事前登録	当日登録
学会員(一般会員・支援会員)	7,000円	7,000円
非学会員	7,000円	7,000円
学生(会員・非会員)	3,000円	4,000円

*懇親会は先着順に受付致します。定員になり次第、締切とさせていただきます。

*当日は星薬科大学より会場までシャトルバスを運行いたします。

(4)事前登録済(2007年9月20日締切)の方

・ご氏名、ご所属を記入頂いたネームカードを、年会当日必ずご持参、ご着用下さい。

・ネームカードは再発行いたしかねますのであらかじめご了承下さい。

(5)当日登録の方

・当日登録をされる方は、当日受付(新星館 1F)にて手続きをお願い致します。参加費をお支払いの上、ネームカード(参加証)、プログラム・要旨集をお受取り下さい。なお、2日目以降の当日受付は本館受付で行います。

(6)プログラム・要旨集(事前登録済みの方)

・年会当日、本館および新星館受付にて、プログラム・要旨集をネームカードに付いている引換票と

引き換えにお受け取り下さい。

- ・当日の混雑をさけるために引換票にはご氏名、ご所属を予めご記入いただけますようお願いいたします。

(7)教育セミナーについて

- ・本年会で開催されます教育セミナーにつきましては、セミナー毎にお申込みを受付けます。参加費は登録費に含まれます。
- ・各セミナーの定員は300名とします。先着順で受付を行います。
なお、教育セミナー2、3、4はすでに満席となっております。なお教育セミナー1,5には若干席に余裕がございますので、先着順とはなりますが、当日セミナー会場前にて整理券をお配りいたします。参加をご希望の方は必ず整理券をお受け取りください。

(8)ランチョンセミナーについて

- ・各ランチョンセミナーの入場には整理券が必要です。

配布時間 ランチョンセミナー1,2,3 → 10月20日(土) 9:00より
 ランチョンセミナー4,5,6 → 10月21日(日) 7:30より

2. 評議員会・総会

10月21日(日) 14:30~15:00、メインホールにて行います。

3. 学会入会について

年会期間中は日本緩和医療薬学会入会受付にて新入会手続き、年会費納入の事務を行います。

4. 日本薬剤師研修センター薬剤師研修認定受講シール配布

第1回日本緩和医療薬学会年会では、薬剤師研修認定単位を年会参加1日につき3単位を認定致します。認定を希望される方は、認定単位受付デスクにて申請してください。

(1)受付場所・時間

認定単位申請デスク(体育館内ブース)

10月20日(土) 10:00~12:50、17:45~19:00

10月21日(日) 13:00~16:30

(2)申請の方法

年会参加証に参加された日のチェックを行いますので、参加した当日に上記のデスクにて受付を行って下さい。申請された方には1日ごとに3単位の認定シールをお渡しします。

申請忘れによる後日のお申し出には対応いたしかねますのでご注意ください。

5. 緩和ケア認定薬剤師認定受講シール配布

本学会における緩和ケア認定薬剤師認定のための受講シールを配布することを検討しております。詳細については、当日配布するプログラム・要旨集をご覧ください。

6. 書籍・企業展示

会期中、機器展示をポスター会場（星薬科大学体育館）にて行います。

7. クローク

クロークは医薬品化学研究所 1 階にご用意します。

8. 喫煙について

指定の喫煙所（本館裏(いこいの広場)、新星館入り口横）以外、本学内はすべて禁煙です。指定場所以外での喫煙は固くお断り致します。

9. 呼び出し、伝言、写真撮影について

- ・呼び出し、伝言

会場内でのスライドおよび館内放送での呼び出しは行いません。

- ・写真撮影禁止

会場内でのスライド、ポスター等の写真撮影は堅くお断りいたします。

【参加登録のお申込みお問合せ先】

第1回日本緩和医療薬学会年会事務局 登録受付係

TEL:03-3423-4180/FAX:03-3423-4108

E-mail: jpps1@the-convention.co.jp

■ 座長の先生方へ

ご担当のセッション開始予定15分前までに、会場内右前方にご着席ください。

※シンポジウムの進行については、座長の先生にお任せしますが、終了時刻は厳守くださいますようご協力お願いします。

■ 演者の先生方へ

1. 教育セミナー・シンポジウム・ランチョンセミナーにおける口頭発表のご案内

(1)発表形式

PC発表のみと致します。

スライドによる発表には対応しておりませんので、あらかじめご了承ください。

液晶プロジェクターは1台のみ使用可能です。

(2)発表時間

当日の進行（計時）については、ランプ、ベルで合図させていただきますので、時間厳守でお願いいたします。

(3)発表データ作成要領

<発表使用パソコン>

会場には Windows XP の PC を用意します。対応アプリケーションは Windows 版 PowerPoint 2003 です。プレゼンテーションデータはあらかじめ Windows パソコンで作動確認していただき、当日 CD-R (W)、USB メモリーでお持ち下さい。

PowerPoint 2007 でプレゼンテーションデータを作成される方ならびに Macintosh でプレゼンテーションデータを作成される方は、ご自身のパソコンをお持ち込み下さい。

お持込をされる場合は、お持込 PC の外部モニター出力端子の形状を必ず確認し、必要な場合は接続用の端子をご持参ください。接続は、Mini、D-sub15 ピン 3 列コネクタ（通常のモニター端子）となります。

<使用アプリケーション>

事務局にて用意する PC のアプリケーションは Power Point 2003（MS Office 2003）です。

Office 2000 以前のバージョンで作成されたもの（MS Office97 等）ならびに Office 2007 で制作されたものについては表示に不具合が生じる可能性があります。

ソフトの問題で生じた不具合については対応いたしかねますのでご了承ください。

<使用フォントについて>

特殊なフォントは使用せず、必ず標準フォント（MSP ゴシック・明朝、Arial・Century 等）を使用してデータを作成してください。

<ファイル名について>

ファイル名は、演題番号-発表者名（姓）の要領で名前を付けてください。

例) S1-1-鈴木

(4)発表データの受付方法

発表されるシンポジウムの開始 1 時間までに「PC センター・年会本部」（本館 3 階 第 1 会議室）に受付を済ませてください。プログラム開始直前は混み合うことが予想されますので、時間に余裕を持って受付をお済ませくださいますようお願いいたします。

発表 10 分前までに次演者席にお着き下さい。

■CD-R (W)、USB メモリーで提出の場合

ご自分の発表するプログラムの開始 1 時間前までに「PC センター・年会本部」にてデータの提出をお願いいたします。データ受付係がデータをコピーさせていただきますのでご了解下さい。

尚、コピーさせていただいたデータにつきましては、年会終了後に主催者側で責任をもって消去いたします。

■パソコンをお持込の場合

パソコンをお持込の場合も、プログラムの開始 1 時間前までに必ず「PC センター・年会本部」にて受付をお済ませ下さい。

ご自分の発表するデータの映写確認をお願いいたします。

2. ポスター発表のご案内

(1)ポスター提示要領

ポスターサイズ：幅90cm 高さ140cm 以内

ポスターパネルには、演題番号カード（横15cm 縦10.5cm）が掲示されます。

各自の発表番号のボードに掲出してください。

貼付用の押しピンをポスター会場入口に用意いたします。

ポスターサイズ内に収まる大きさのものであれば、様式は問いません。

(2)発表形式

ポスター発表時刻には、各自ポスターの前で発表してください。

(3)掲示・撤去

20日（土）発表の方は、当日11：15までにポスター提示を完了してください。

また、19：15までにポスターを取り外してください。

21日（日）発表の方は当日10：15までにポスター提示を完了してください。

また、16：30までにポスターを取り外してください。

ポスター撤去の時刻までに取り外しのなかったポスターにつきましては、事務局にて処分させていただきます。

(4)ポスター作成要領

ポスターを作成される際には、演題名、著者名、所属名を必ず明記するようにし、以降に発表内容を記載してください。

(5)ポスター発表優秀賞

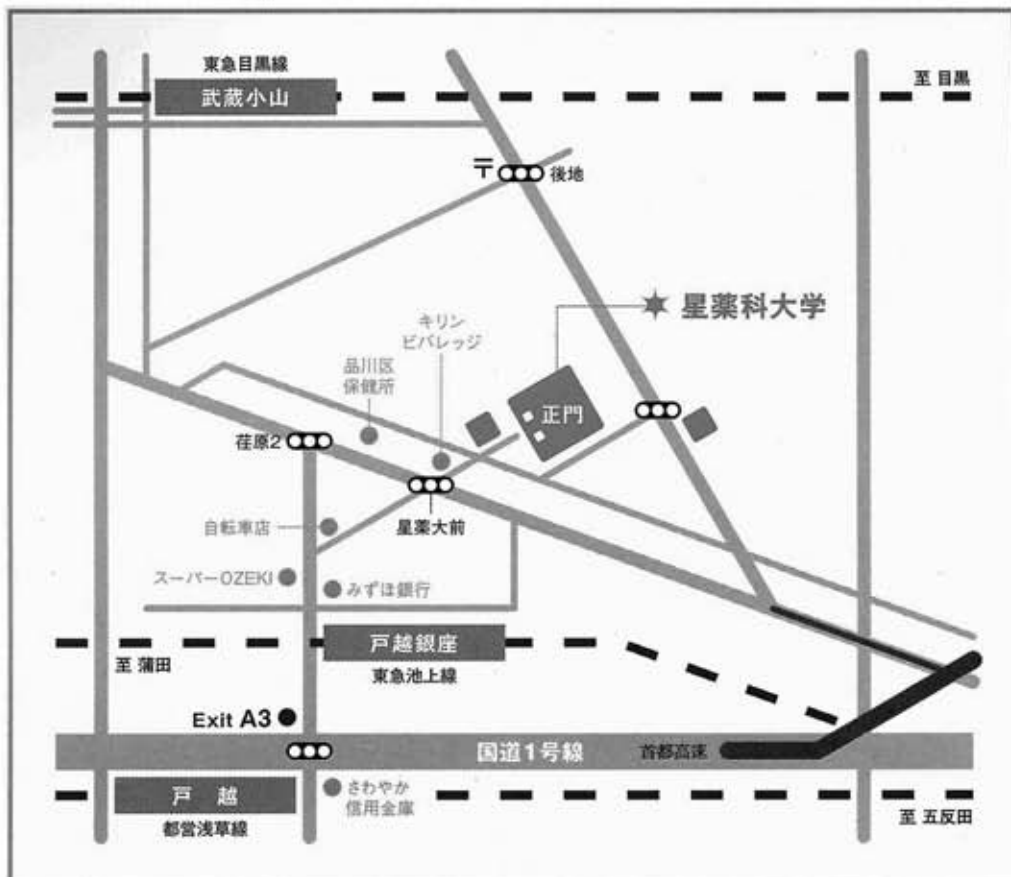
本年会のポスター発表では、プログラム委員によるポスター発表審査を行います。

21日（日）16：30～17：00の閉会式においてポスター発表優秀賞の発表と授与式を行います。

会場のご案内

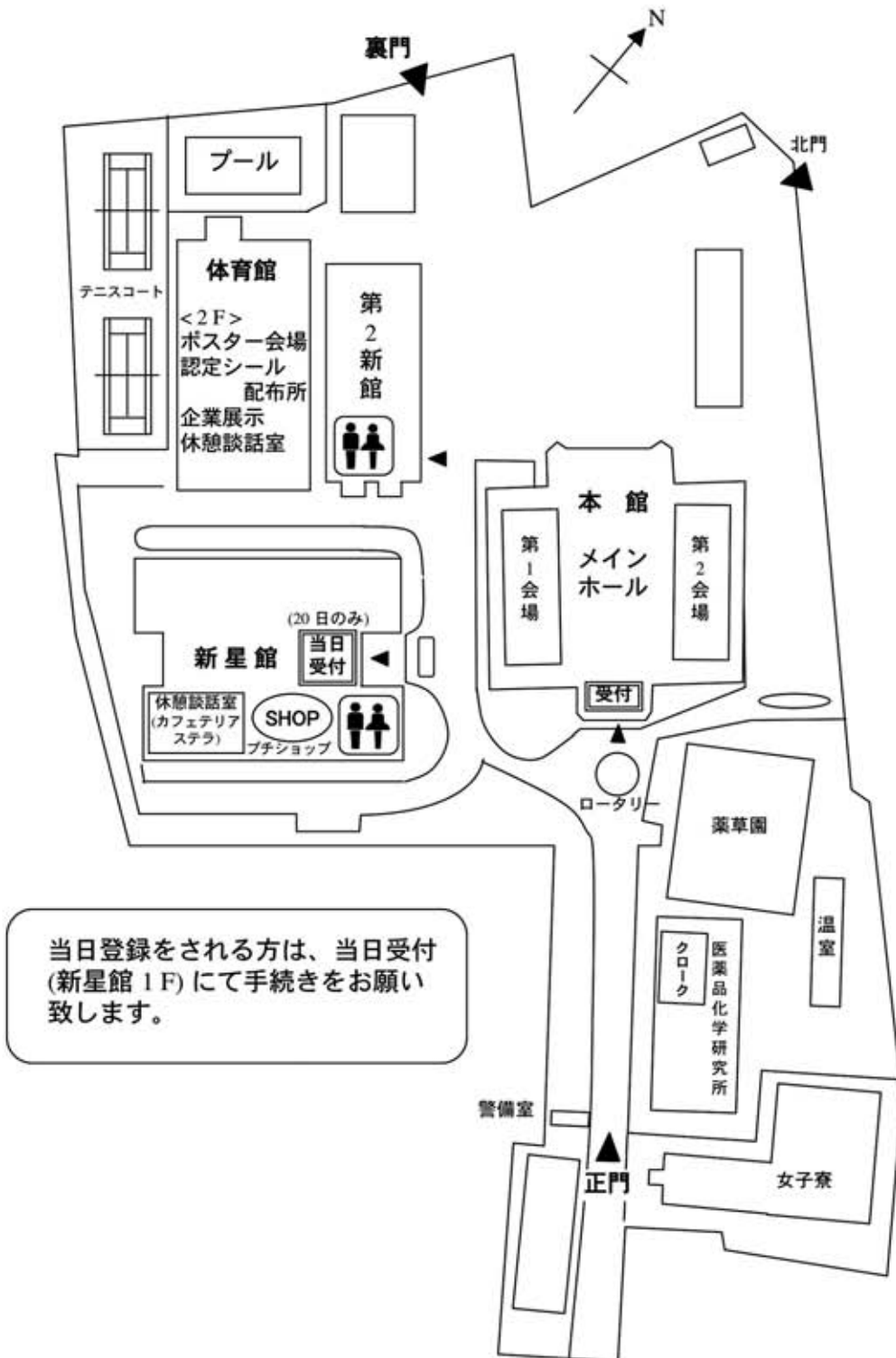


<最寄り駅からのアクセス>



星薬科大学 構内案内図

- ・喫煙所以外での喫煙は禁止です。
- ・本館メインホール内は飲食禁止です。



当日登録をされる方は、当日受付 (新星館 1F) にて手続きをお願いします。

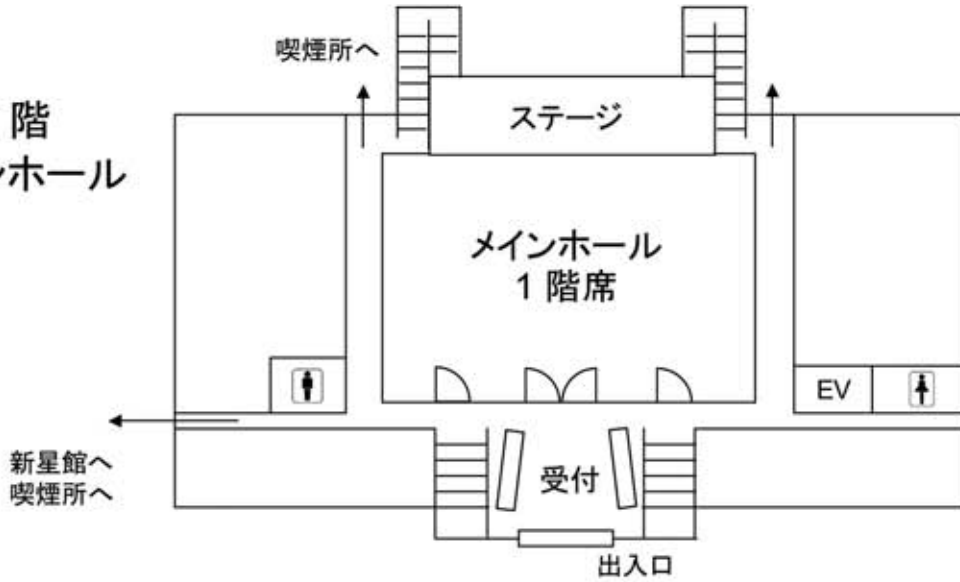


本館1階のお手洗いの数が少ないため、混雑が予想されます。本館2階ならびに新星館1階のお手洗いもご利用下さい。

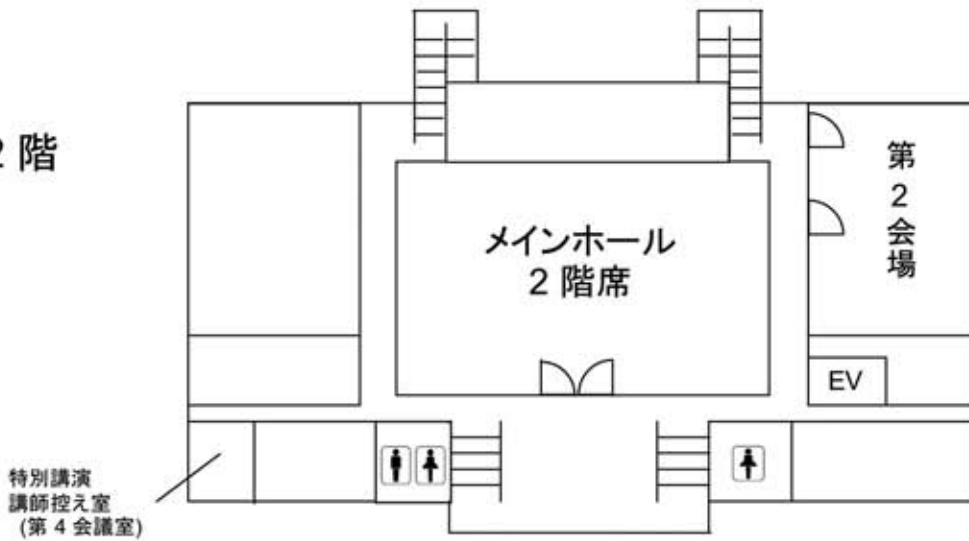


指定の喫煙所 (本館裏いこの広場、新星館入り口横、医薬品化学研究所入り口横) 以外、本学内はすべて禁煙です。指定場所以外での喫煙は固くお断り致します。

本館 1 階
メインホール

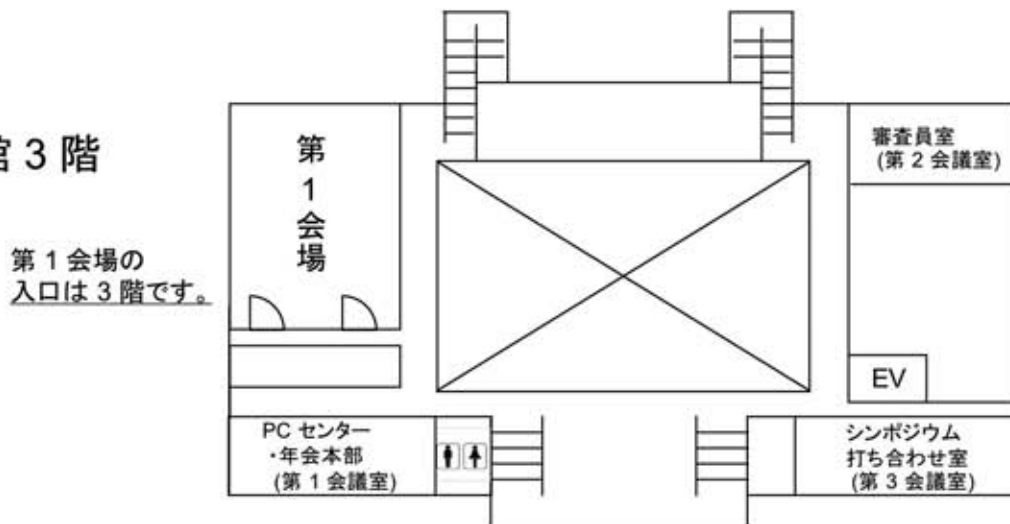


本館 2 階



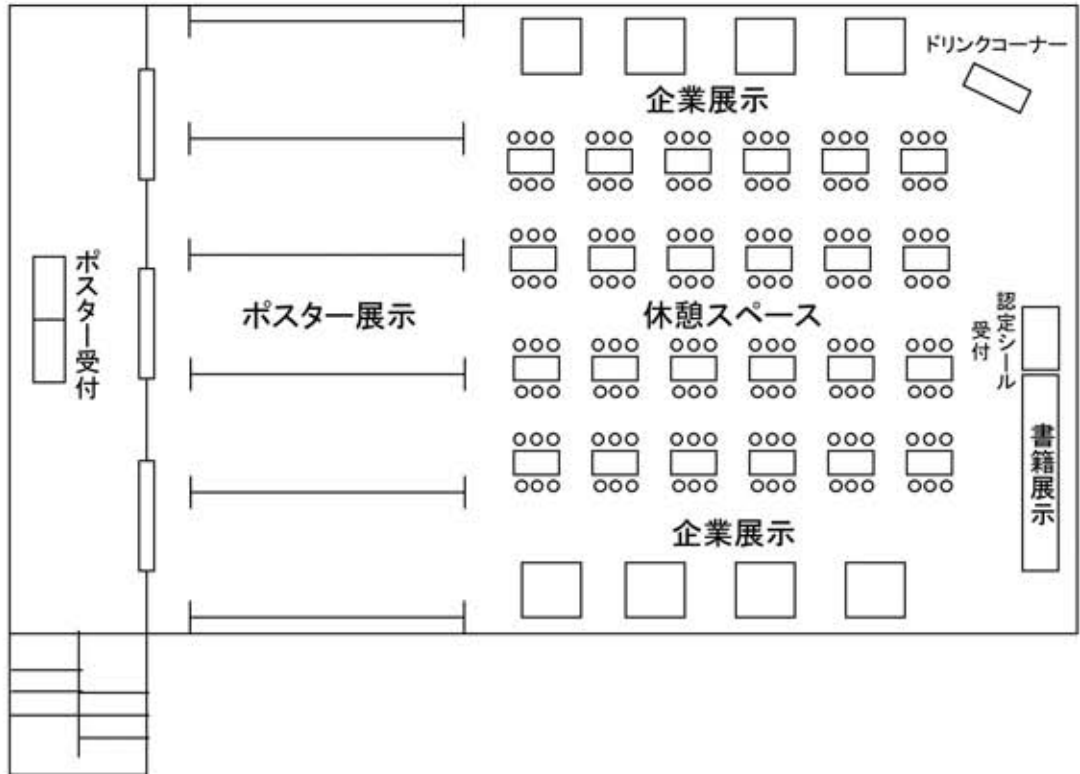
第2会場の
入口は2階です。

本館 3 階

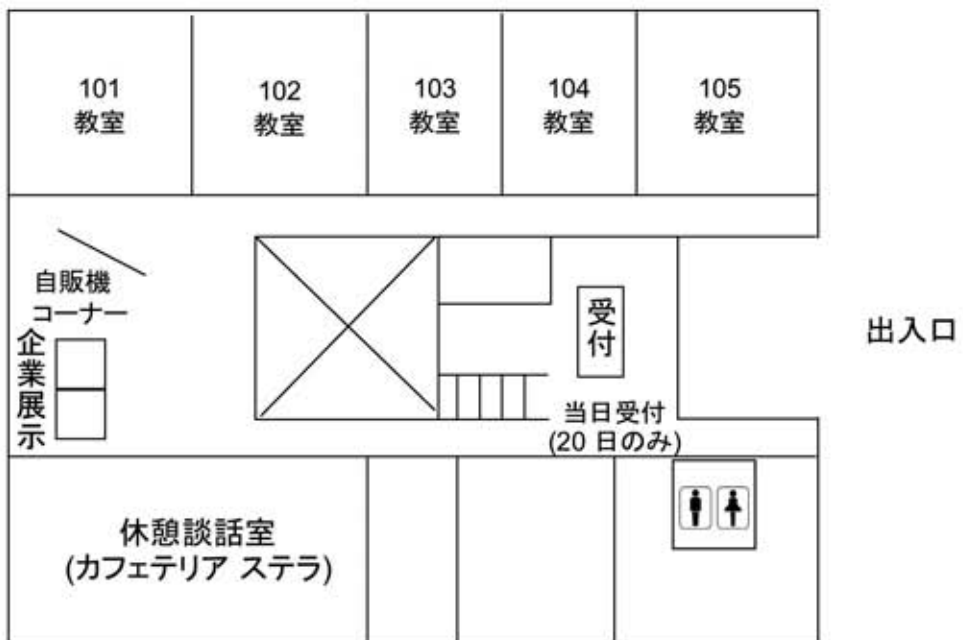


第1会場の
入口は3階です。

体育館 2 階



新星館 1 階



※ メインホールで行われたランチョンセミナーのお弁当は、カフェテリア ステラ
ならびに体育館に併設された休憩談話室でお召し上がり下さい。

第一日目 10月20日(土)

	メインホール (本館 1F)	第一会場 (本館 3F)	第二会場 (本館 2F)	ポスター会場 (体育館)	機器展示会場 (体育館)
9:00					
9:30					
10:00					
10:30		教育セミナー1 10:15-11:15 医学(科学)論文の 読み方・書き方: さあ臨床研究をはじめよう 座長 武田弘志 演者 高橋 理	教育セミナー2 10:15-11:15 WHO方式がん疼痛治療法の 基本を学ぶ 座長 加藤裕久 演者 的場元弘	ポスター貼り出し	機器展示
11:00					
11:30	ランチョンセミナー1 11:30-12:30 薬剤師が知っておくべき精神的 ケアのABC-コミュニケーション と向精神薬処方のあるあり方 座長 山脇成人 演者 佐伯俊成	ランチョンセミナー2 11:30-12:30 在宅緩和医療をいかに成功 させるか 座長 小川節郎 演者 竹内尚子 初鹿野美貴子	ランチョンセミナー3 11:30-12:30 緩和医療における 鎮痛補助薬の使い方 座長 宮崎東洋 演者 井関雅子	ポスター閲覧	機器展示
12:00					
12:30					
13:00	開会式				
13:30	シンポジウム1 13:30-15:15 オピオイドローテーションの 基礎と実践 座長 成田 年 演者 服部政治 合田由紀子 細川豊史 成田 年			ポスター閲覧	機器展示
14:00					
14:30					
15:00					
15:30	特別講演 15:20-16:20 Quality Indicator: 医療の質を測る 司会 鈴木 勉 演者 福井次矢				
16:00					
16:30	シンポジウム2 16:30-17:45 オピオイドの副作用対策の 基礎と臨床 座長 片山志郎 中西弘和 演者 富安志郎 国分秀也 網岡克雄 亀井淳三	シンポジウム3 16:30-17:45 がん疼痛治療における コミュニケーション能力 座長 塩川 満 川村和美 演者 伊東俊雅 月山 淑 玉橋容子 栗原幸江	シンポジウム4 16:30-17:45 非ステロイド性抗炎症薬の 有用性 座長 高濱和夫 山田勝士 演者 高橋浩子 森住美幸 余宮きのみ	ポスター閲覧	機器展示
17:00					
17:30					
18:00					
18:30				ポスター発表 17:45-19:00	
19:00				ポスター撤去	
19:30					
20:00					

懇親会

10月20日(土) 19:30 ~ 21:30

会場: 五反田ゆうぽうと 7階「重陽」

〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-4-13 Tel: 03-3494-6339

第二日目 10月21日(日)

	メインホール (本館 1F)	第一会場 (本館 3F)	第二会場 (本館 2F)	ポスター会場 (体育館)	機器展示会場 (体育館)
8:00					
8:30		教育セミナー3 8:00-9:00 患者の病態に合わせた オピオイドの使い方 座長 片山志郎 演者 加賀谷肇			
9:00		教育セミナー4 9:00-10:00 緩和医療における薬物治療 の基礎 座長 小野秀樹 演者 成田 年	教育セミナー5 9:00-10:00 地域緩和ケアチームにおけ る調剤薬局の役割 座長 篠 道弘 演者 轡 基治	ポスター貼り出し	
9:30					
10:00					
10:30	シンポジウム5 10:15-11:45 緩和医療におけるこれからの 薬剤師のあり方 座長 加賀谷肇 平井みどり 演者 橋爪隆弘 井沢知子 小西洋子 轡 基治 Andrew Dickman	シンポジウム6 10:15-11:45 緩和医療における疼痛治療 の薬学的研究 座長 荒木博陽 櫻田 忍 演者 吉田 正 杉山 清 上田晴久 高山幸三		ポスター閲覧	
11:00					
11:30					
12:00					
12:30	ランチョンセミナー4 12:00-13:00 英国ホスピス・緩和ケアに おける臨床薬剤師の役割 座長 加賀谷肇 演者 Andrew Dickman	ランチョンセミナー5 12:00-13:00 臨床例に学ぶー早期からの 緩和ケアー 座長 下山直人 演者 有賀悦子	ランチョンセミナー6 12:00-13:00 NSAIDsの最新情報と使い方 座長 倉石 泰 演者 川合眞一		機器展示
13:00					
13:30				ポスター発表 13:00-14:30	
14:00					
14:30					
15:00	評議員会・総会				
15:30	シンポジウム7 15:00-16:30 居宅訪問医療の実施と 問題点 座長 亀井淳三 長谷川寛 長谷川聰 山丸淳司 曾根敦子 串田一樹	シンポジウム8 15:00-16:30 疼痛治療による 「前向き」医療の科学的根拠 座長 野田幸裕 大澤匡弘 演者 倉石 泰 川合眞一 下山直人		ポスター閲覧	
16:00					
16:30	閉会式			ポスター撤去	
17:00					
17:30					
18:00					

【プログラム】

開会式

特別講演

教育セミナー

シンポジウム

ランチョンセミナー

ポスター発表

開会式

10月20日(土) 13:00~13:30

メインホール

開会挨拶
来賓祝辞

年会長 鈴木 勉
厚生労働大臣 舛添要一先生

特別講演

10月20日(土) 15:20~16:20

メインホール

司会 鈴木 勉 (星薬科大学 薬品毒性学教室 教授)

- SL1 Quality Indicator: 医療の質を測る
福井 次矢 (聖路加国際病院 院長)

教育セミナー

教育セミナー 1

10月20日(土) 10:15~11:15

第一会場

座長 武田 弘志 (国際医療福祉大学 薬学部 薬理学分野 教授)

- E1 医学(科学)論文の読み方・書き方:さあ臨床研究をはじめよう
高橋 理 (聖路加国際病院 一般内科)

教育セミナー 2

10月20日(土) 10:15~11:15

第二会場

座長 加藤 裕久 (国立がんセンター中央病院 副薬剤部長)

- E2 WHO方式がん疼痛治療法の基本を学ぶ
的場 元弘 (国立がんセンター がん対策情報センター がん情報・統計部、
がん医療情報サービス室 室長)

教育セミナー 3

10月21日(日) 8:00~9:00

第一会場

座長 片山 志郎 (日本医科大学付属病院 薬剤部長)

- E3 患者の病態に合わせたオピオイドの使い方
加賀谷 肇 (済生会横浜市南部病院 薬剤部長)

教育セミナー 4

10月21日(日) 9:00~10:00

第一会場

座長 小野 秀樹 (名古屋市立大学大学院 薬学研究科 中枢神経機能薬理学分野 教授)

E4 緩和医療における薬物治療の基礎

成田 年 (星薬科大学 薬品毒性学教室 准教授)

教育セミナー 5

10月21日(日) 9:00~10:00

第二会場

座長 篠 道弘 (静岡県立静岡がんセンター 薬剤部長)

E5 地域緩和ケアチームにおける調剤薬局の役割

轡 基治 (うえまつ調剤薬局 管理薬剤師)

シンポジウム

シンポジウム 1 オピオイドローテーションの基礎と実践

10月20日(土) 13:30~15:15

メインホール

座長: 成田 年 (星薬科大学 薬品毒性学教室)

服部 政治 (国立がんセンター中央病院 麻酔・緩和ケア科)

S1-1 オピオイドローテーションの over view

服部 政治 (国立がんセンター中央病院 麻酔・緩和ケア科)

S1-2 オピオイドローテーションの臨床—鎮痛補助薬の有用性

合田 由紀子 (市立札幌病院 緩和ケア科)

S1-3 がんの骨転移の機序と疼痛緩和

細川 豊史 (京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部)

S1-4 医療用麻薬の有用性と各種オピオイドの特徴:基礎研究の意義と科学的根拠の必要性

成田 年 (星薬科大学 薬品毒性学教室)

シンポジウム2 オピオイドの副作用対策の基礎と臨床

10月20日(土) 16:30~17:45

メインホール

座長: 片山 志郎(日本医科大学附属病院 薬剤部)
中西 弘和(京都桂病院 医務部薬剤科)

- S2-1 オピオイドの副作用の基礎と臨床 ~消化器症状のコントロールについて~
富安 志郎(長崎市立市民病院 麻酔科・緩和ケアチーム)
- S2-2 オピオイドの副作用対策における臨床データ
国分 秀也(北里大学病院 薬剤部)
- S2-3 在宅医療、緩和医療における薬剤師業務と関連法規
網岡 克雄(金城学院大学 薬学部)
- S2-4 慢性疼痛下におけるモルヒネ呼吸抑制作用の減弱に対するセロトニン
5-HT_{4a}受容体の関与
亀井 淳三(星薬科大学 薬物治療学教室)

シンポジウム3 がん疼痛治療におけるコミュニケーション能力

10月20日(土) 16:30~17:45

第一会場

座長: 塩川 満(聖路加国際病院 薬剤部)
川村 和美(スギ薬局)

- S3-1 '安心'という'くすり'の処方箋 -薬剤師に必要なコミュニケーションスキルとは?-
伊東 俊雅(東京女子医科大学病院 薬剤部)
- S3-2 医師はどのようにして患者から"痛み"の情報を聞き出すのか?
月山 淑(和歌山県立医科大学附属病院 集学的治療・緩和ケア部)
- S3-3 医療者間の円滑なコミュニケーションを取るには
玉橋 容子(聖路加国際病院 看護部)
- S3-4 コミュニケーション力:スキルアップのためのヒント
栗原 幸江(静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科)

シンポジウム4 非ステロイド性抗炎症薬の有用性

10月20日(土) 16:30~17:45

第二会場

座長: 高濱 和夫(熊本大学大学院 医学薬学研究部 環境分子保健学分野)
山田 勝士(鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 薬剤部)

- S4-1 がん疼痛におけるアセトアミノフェン
高橋 浩子(東北労災病院 薬剤部)
- S4-2 NSAIDsの副作用とその対策 ~看護の視点から~
森住 美幸(埼玉県立がんセンター 看護部)
- S4-3 NSAIDsはがん性疼痛に有用か?
余宮 きのみ(埼玉県立がんセンター 緩和ケア科)

シンポジウム5 緩和医療におけるこれからの薬剤師のあり方

10月21日(日) 10:15~11:45

メインホール

座長: 加賀谷 肇(済生会横浜市南部病院 薬剤部)
平井 みどり(神戸大学医学部附属病院 薬剤部)

- S5-1 薬剤師なしでは、これからの緩和ケアは成り立たない
橋爪 隆弘(市立秋田総合病院 外科 がん治療支援・緩和ケアチーム)
- S5-2 看護師の立場から、緩和ケアチームにおいて薬剤師に望むこと
井沢 知子(兵庫県立がんセンター 看護部)
- S5-3 これからの緩和医療に関する薬剤師のありかたについて
小西 洋子(京都府立医科大学付属病院 薬剤部)
- S5-4 在宅緩和ケアと保険薬局
轡 基治(うえまつ調剤薬局)

パネリスト: Andrew Dickman

(Senior Clinical Pharmacist, Marie Curie Palliative Care Institute, Liverpool, U.K)

シンポジウム6 緩和医療における疼痛治療の薬学的研究

10月21日(日) 10:15~11:45

第一会場

座長: 荒木 博陽(愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)
櫻田 忍(東北薬科大学 機能形態学教室)

- S6-1 モルヒネ疼痛緩和効果における薬理遺伝学的検討
— μ オピオイド受容体遺伝子の遺伝子多型と発現調節機構—
吉田 正(星薬科大学 病態生理学教室)
- S6-2 複方オキシコドン注射液含有成分 hydrocotarnine による薬物間相互作用の可能性の検討
杉山 清(星薬科大学 薬動学教室)
- S6-3 シクロデキストリンとの混合粉砕がフェンタニルに及ぼす影響
上田 晴久(星薬科大学 薬品物理化学教室)
- S6-4 角層脂質の構造解析に基づく疼痛治療のための経皮吸収型製剤の開発
高山 幸三(星薬科大学 薬剤学教室)

シンポジウム7 居宅訪問医療の実施と問題点

10月21日(日) 15:00~16:30

メインホール

座長: 亀井 淳三(星薬科大学 薬物治療学教室)
長谷川 寛(フロンティア薬局)

- S7-1 患者・家族が望む退院支援を目指して ~保険薬局からの提案~
長谷川 聡(関口調剤薬局)
- S7-2 在宅患者訪問薬剤管理指導の現状と問題点
山丸 淳司(やままる薬局)
- S7-3 「ホスピス・ケア退院支援システム」構築への検討
曾根 敦子(東海大学医学部附属大磯病院 薬剤部)
- S7-4 在宅がん治療と薬剤師の責務
串田 一樹(昭和薬科大学 医療薬学教育研究センター)

シンポジウム 8 疼痛治療による「前向き」医療の科学的根拠

10月21日(日) 15:00~16:30

第一会場

座長: 野田 幸裕(名城大学大学院 薬学研究科病態解析学 I)
大澤 匡弘(星薬科大学 薬物治療学教室)

はじめに がん性疼痛治療に必要な「前向き」医療の科学的根拠の必要性

野田 幸裕 (名城大学大学院 薬学研究科病態解析学 I)

S8-1 鎮痛の意義: 苦痛の軽減と QOL の向上のためだけか?

倉石 泰 (富山大学大学院 医学薬学研究部 応用薬理学研究室)

S8-2 NSAIDs の抗腫瘍作用

川合 眞一 (東邦大学医療センター大森病院 膠原病科)

S8-3 がん性疼痛の緩和による延命効果について

下山 直人 (国立がんセンター中央病院 麻酔・緩和ケア科)

まとめとして 今後の疼痛治療による「前向き」医療に向けて

大澤 匡弘 (星薬科大学 薬物治療学教室)

ランチョンセミナー

ランチョンセミナー 1

10月20日(土) 11:30~12:30

メインホール

座長 山脇 成人 (広島大学病院 精神科)

LS-1 薬剤師が知っておくべき精神的ケアの ABC

ーコミュニケーションと向精神薬処方のある方ー

佐伯 俊成 (広島大学病院 医系総合診療科)

共催: 大日本住友製薬 (株)

ランチョンセミナー 2

10月20日(土) 11:30~12:30

第一会場

座長 小川 節郎 (日本大学医学部 麻酔科)

LS2-1 在宅緩和医療における薬局薬剤師に期待される役割

竹内 尚子 (かもめ薬局 北里健康館)

LS2-2 薬局薬剤師による在宅での疼痛緩和医療の問題点

初鹿野 美貴子 (こじか薬局)

共催: 田辺三菱製薬 (株)

ランチョンセミナー 3

10月20日(土) 11:30~12:30

第二会場

座長 宮崎 東洋 (順天堂大学医学部 / 将道会東京クリニック)

LS-3 緩和医療における鎮痛補助薬の使い方

井関 雅子 (順天堂大学医学部 麻酔科学・ペインクリニック講座)

共催: 大鵬薬品工業 (株)

ランチョンセミナー 4

10月21日(日) 12:00~13:00

メインホール

座長 加賀谷 肇 (済生会横浜市南部病院 薬剤部)
LS-4 英国ホスピス・緩和ケアにおける臨床薬剤師の役割
Andrew Dickman (Senior Clinical Pharmacist, Marie Curie Palliative Care Institute,
Liverpool, U.K)

同時通訳付

共催: ヤンセンファーマ (株)

ランチョンセミナー 5

10月21日(日) 12:00~13:00

第一会場

座長 下山 直人 (国立がんセンター中央病院手術部)
LS-5 臨床例に学ぶー早期からの緩和ケアー
有賀 悦子 (国立国際医療センター 緩和ケア科)
共催: ムンディファーマ(株)・塩野義製薬 (株)

ランチョンセミナー 6

10月21日(日) 12:00~13:00

第二会場

座長 倉石 泰 (富山大学大学院 医学薬学研究部 応用薬理学研究室)
LS-6 NSAIDsの最新情報と使い方
川合 眞一 (東邦大学医療センター大森病院 膠原病科)
共催: 久光製薬 (株)

ポスター発表

10月20日(土) (展示) 11:15~15:20 (討論) 17:45~19:00

体育館

1. 緩和ケア領域における分析・アセスメント

10月20日(土)

- P1-1 国立がんセンター中央病院におけるオピオイド製剤の使用状況
龍島 靖明 (国立がんセンター中央病院 薬剤部)
- P1-2 当院における医療用麻薬の使用実態調査
片山 明香 (埼玉県立がんセンター 薬剤部)
- P1-3 当院の麻薬使用状況と最近の処方傾向
福江 弘子 (久留米大学病院 薬剤部)
- P1-4 オピオイド製剤の使用状況と緩和ケア病棟開設の必要性
長谷川 直美 (出水郡医師会立阿久根市民病院 薬剤科)
- P1-5 保険調剤薬局における医療用麻薬の取扱い状況と服薬指導等の現状調査
高橋 浩子 (東北労災病院 薬剤部)
- P1-6 麻薬生産者協会の活動と緩和医療について
小田原 昭男 (麻薬生産者協会)
- P1-7 複方オキシコドン注を緩和ケアで使用した114エピソード:院内処方量調査と有用性解析
久田 純生 (社会保険中京病院)
- P1-8 情報活動がもたらしたオピオイドの使用動向による経済効果
長谷川 佳美 (新潟県立がんセンター新潟病院)
- P1-9 持参麻薬の運用管理と使用状況
後藤 玲子 (癌研究会明病院 薬剤部)
- P1-10 注射薬皮下投与についての検討(抗生物質編)
倉辻 羊子 (聖路加国際病院 薬剤部)
- P1-11 死からの逃避—法医学の立場からみた薬物中毒死の実体—
加藤 英明 (京都府立医科大学 法医学教室)
- P1-12 オキノーム®散使用実態調査:多施設共同研究
芝崎 由美子 (岡山済生会総合病院 薬剤科)
- P1-13 当院院外処方におけるオピオイド製剤及び併用薬剤の使用状況
中野 泰寛 (上尾中央総合病院 薬剤部)
- P1-14 中小病院における薬剤師の痛みの経過表を用いた緩和ケア参画
里見 眞知子 (医療法人社団 慈成会東旭川病院)
- P1-15 国立がんセンター中央病院におけるがん疼痛除痛率
赤木 徹 (国立がんセンター中央病院 薬剤部)
- P1-16 当院における疼痛管理の現状と課題
城 裕一郎 (親仁会米の山病院 薬剤科)
- P1-17 緩和ケアチーム紹介患者におけるオピオイド製剤処方状況について
莊子 夏緒里 (東大阪市立総合病院)

2. オピオイドローテーション

10月20日(土)

- P2-1 高用量フェンタニルパッチからのオピオイドローテーション
益子 里美 (東京都保健医療公社 東部地域病院 薬剤科)
- P2-2 薬物動態パラメータを応用したオピオイドローテーションに関する研究(1)
—フェンタニル貼付剤からモルヒネ注への切替え方法の検討—
平山 武司 (北里大学東病院 薬剤部)
- P2-3 薬物動態パラメータを応用したオピオイドローテーションに関する研究(2)
—モルヒネ注からフェンタニル貼付剤への切替え方法の検討—
川口 英美 (北里大学大学院薬学研究科)
- P2-4 薬物動態パラメータを応用したオピオイドローテーションに関する研究(3)
—オキシコドン徐放錠からフェンタニル貼付剤への切替え方法の検討—
齋藤 幸野 (北里大学大学院薬学研究科)
- P2-5 薬物動態パラメータを応用したオピオイドローテーションに関する研究(4)
—フェンタニル貼付剤からオキシコドン徐放錠への切替え方法の検討—
川野 千尋 (北里大学東病院 薬剤部)
- P2-6 疼痛変化を基にした、経口モルヒネ製剤からフェンタニルパッチ 2.5mgへの移行時における
腎機能と換算の検討
田幸 稔 (長野赤十字病院)
- P2-7 μ -, δ -オピオイド二量体化受容体では医療用麻薬の細胞内シグナルが異なる
—培養細胞を用いて—
須藤 結香 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 生命医科学講座 内臓薬理学)
- P2-8 各種オピオイド使用量のモニタリング ～オピオイドローテーションへの活用～
萬谷 摩美子 (藤沢市民病院 薬局)

3. チーム医療

10月20日(土)

- P3-1 大学病院における緩和ケアチームの評価と今後の課題
松永 尚 (岡山大学病院 薬剤部)
- P3-2 薬剤師と緩和ケアチームのかかわり
小島 正照 (東京女子医科大学病院 かんわけあち一む)
- P3-3 一般病床での緩和ケアにおける病棟薬剤師の役割
～緩和ケアチーム薬剤師との連携を考える～
烏山 みどり (長崎大学医学部・歯学部附属病院 薬剤部)
- P3-4 当院緩和ケアチームにおける薬剤師の関わり ～現状と今後の課題～
網野 一真 (諏訪赤十字病院 薬剤部)
- P3-5 緩和ケアチームにおける薬剤師の役割
村上 通康 (松山赤十字病院 薬剤部)
- P3-6 疼痛管理の向上を目指した緩和ケアチーム薬剤師の取り組み～レスキュー投与の標準化と
外来での除痛率向上を目指して～
山寺 文博 (みやぎ県南中核病院 薬剤部)
- P3-7 新潟県立がんセンター新潟病院におけるサポートケア委員会活動
川原 史子 (新潟県立がんセンター新潟病院 薬剤部)

- P3-8 長崎市立市民病院緩和ケアチームにおける薬剤師活動の現状と地域連携を目指した今後の取り組みについて
嵩下 浩子（長崎市立市民病院 薬剤部）
- P3-9 院内のオピオイド消費量とがん有痛率によって緩和ケアチーム稼働を評価する
長谷川 徹（社会保険中京病院）
- P3-10 緩和ケアチームに紹介のあった譫妄の一例をとおして
田澤 利治（北里大学病院 緩和ケアチーム）
- P3-11 医療用麻薬のアドヒアランス向上が得られた症例
小瀬 英司（日本医療伝道会 衣笠病院 薬剤部）

4. 薬物動態

10月20日(土)

- P4-1 複方オキシコドン注射液含有成分 hydrocotarnine による cytochrome P450 および P-糖タンパク質阻害作用の検討
伊藤 清美（星薬科大学 薬動学教室）
- P4-2 Cytochrome P450 および P-糖タンパク質の発現に及ぼす hydrocotarnine の影響
久保田 祐（星薬科大学 薬動学教室）
- P4-3 マウス in vivo P-糖タンパク質活性に及ぼす hydrocotarnine の影響
須藤 智史（星薬科大学 薬動学教室）

5. 副作用

10月20日(土)

- P5-1 オピオイド投与量が短期間に高用量へと移行した症例における除痛効果と副作用
津野 丈彦（医療法人社団三喜会横浜新緑総合病院 薬剤部）
- P5-2 硫酸モルヒネ徐放錠の色素による薬疹の一例
遠藤 理香（済生会横浜市南部病院 薬剤部）
- P5-3 がん疼痛治療におけるフェンタニル貼付剤の副作用の特徴(服薬指導に関わった一症例より)
下角 智（生協さえき病院）
- P5-4 モルヒネ及びその代謝物の便秘誘発作用と消化管平滑筋収縮作用
岩田 紘樹（千葉大学大学院 薬学研究院 高齢者薬剤学）
- P5-5 高用量モルヒネの脊髄腔内投与は痛みを引き起こす
渡辺 千寿子（東北薬科大学 機能形態学教室）

6. 鎮痛補助薬

10月20日(土)

- P6-1 地域中核病院における鎮痛補助薬の使用状況と問題点
安井 友佳子（市立堺病院 薬剤科）
- P6-2 愛媛大学病院における麻薬と NSAIDs(非ステロイド性消炎鎮痛剤)の併用状況
飛鷹 範明（愛媛大学 医学部附属病院 薬剤部）
- P6-3 当センターにおける非ステロイド性消炎・鎮痛薬の使用実態調査
近藤 潤一（埼玉医科大学 総合医療センター）
- P6-4 鎮痛補助薬としてケタミンを少量から投与開始した症例における鎮痛効果と安全性の評価
岡本 禎晃（大阪大学大学院 薬学研究科）

- P6-5 ケタラールシロップ継続中にケタミンが麻薬指定になった一症例と諸問題
宮崎 百合（横浜市立みなと赤十字病院 薬剤部）
- P6-6 各種抗うつ薬の抗侵害刺激作用に対するカルバマゼピンの増強効果
辻 稔（国際医療福祉大学 薬学部 薬理学分野）
- P6-7 抗うつ薬による P2X₄ 受容体抑制作用：神経因性疼痛寛解効果への関連性
津田 誠（九州大学大学院 薬学研究院 薬理学分野）
- P6-8 下垂体腺種の難治性頭痛の治療に苦慮した 1 症例 ～オクトレオチド製剤での疼痛コントロール～
星 茜（昭和大学病院 薬剤部）
- P6-9 オピオイド抵抗性のがん性疼痛に対してイフェンプロジルが奏効した一例
吉岡 大樹（医療法人財団白十字会佐世保中央病院 薬剤科）
- P6-10 がん患者の難治性吃逆にバクロフェンが有効であった症例の検討
龍 恵美（長崎大学医学部・歯学部附属病院 薬剤部）

7. 緩和ケアの実践とその評価

10月20日(土)

- P7-1 外来点滴センターにおけるオピオイド導入時の薬剤師の役割
信濃 裕美（聖路加国際病院 薬剤部）
- P7-2 急性期一般病院における緩和医療部会の活動状況と薬剤師の役割
片山 広美（碧南市民病院 薬剤部）
- P7-3 疼痛緩和委員会の活動と薬剤師の役割
武田 恵美（社会保険浜松病院 薬剤部）
- P7-4 外来緩和ケア患者の保険薬局での服薬指導現場に不足するもの～問題点の把握と改善策の考察～
前堀 直美（浜松 POG 研究グループ(レモン薬局浜松市)）
- P7-5 保険薬局における服薬指導の充実に向けて(第5報)オピオイド製剤の服薬指導の現状とその課題
木村 嘉明（社団法人福井県薬剤師会 水仙薬局）
- P7-6 緩和ケアに関与する保険薬局薬剤師の現状と今後について
植松 慶太（社団法人高松市薬剤師会 調剤薬局「亀岡」）

8. 在宅医療

10月20日(土)

- P8-1 地域における医療連携による在宅緩和ケアの体制作り
－医師会と地域基幹病院との事例検討会による改善の実績－
鉄穴口 麻里子（広島市医師会運営 安芸市民病院）
- P8-2 訪問薬剤管理指導業務の事例報告と在宅医療(在宅緩和医療)の地域連携
～Team MORIOKA 訪問薬剤師として～
長井 貴之（(株)ツルハ 調剤薬局ツルハドラッグ 上田店）
- P8-3 在宅医療チームの一員としての薬剤師の役割
坂本 岳志（あけぼの薬局）
- P8-4 在宅療養における緩和ケアへのかかわりと問題点
保坂 洋二（信堂薬局）

P8-5 在宅訪問における疼痛管理と TPN の問題点
高橋 眞生 (カネマタ薬局)

9. 痛み(オピオイド・レスキュー・管理)

10月20日(土)

- P9-1 透析患者における癌疼痛治療-オキシコドンによるコントロールを試みた1症例-
齊藤 達郎 (神奈川県立汐見台病院 薬剤科)
- P9-2 がん性骨疼痛(FBC)モデルでのオキシコドンの鎮痛作用について
南 和寿 (塩野義製薬 創薬研究所)
- P9-3 頭頸部がん患者の放射線治療におけるオピオイドの早期使用の有用性の検討
高瀬 久光 (福岡大学病院 薬剤部)
- P9-4 フェンタニルの鎮痛耐性が疑われた症例の検討
能勢 誠一 (長崎大学医学部 歯学部附属病院 薬剤部)
- P9-5 一般病院での緩和医療 薬剤師にできたこと、できなかったこと
～胃がん・Krukenberg 腫瘍の1症例を通して～
関根 均 (公立昭和病院 薬剤部)
- P9-6 術後に発症したリンパ浮腫の症状緩和に介入した1症例
松本 小百合 (昭和大学病院 薬剤部)
- P9-7 当院におけるレスキュー薬の使用状況とその考察
石本 昌裕 (東北労災病院 薬剤部)
- P9-8 フェンタニル貼付剤・オキシコドン徐放錠使用時における即効性モルヒネ(レスキュードーズ)に
関する使用状況調査
伊東 俊雅 (東京女子医科大学病院 薬剤部)
- P9-9 疼痛制御機構に関する研究(第72報): Functional MRIを用いた炎症性疼痛時における脳
機能変化の解析
新倉 慶一 (星薬科大学 薬品毒性学教室)
- P9-10 疼痛制御機構に関する研究(第75報): 痛みシグナルによる不安発現の脳内分子機構
葛巻 直子 (星薬科大学 薬品毒性学教室)
- P9-11 メキシレチンと牛車腎気丸は一酸化窒素が関与する痛覚伝達調節系を介してピンクリスチン
誘発神経因性疼痛を緩和する
大澤 匡弘 (星薬科大学 薬物治療学教室)
- P9-12 モルヒネの依存性、副作用を軽減した新規鎮痛薬の創出を目的とするモルヒネ誘導体の
デザイン及びその薬理作用
根本 徹 (北里大学 薬学部 生命薬化学教室)

10. 緩和医療教育

10月20日(土)

- P10-1 当院薬剤部における、緩和ケア専門薬剤師研究会の取り組み
高橋 麻利子 (東京女子医科大学病院 薬剤部)
- P10-2 スギ薬局における緩和医療教育と薬局薬剤師の新たな使命
川村 和美 ((株)スギ薬局)
- P10-3 がん疼痛治療 Compliance(指導)から Concordance(パートナー)へ
阿南 節子 (市立堺病院)

- P10-4 医学部学生に対する「麻薬(オピオイド)の取り扱い」に関する講義の実施と緩和医療教育における薬剤師の役割
杉浦 宗敏 (東京大学医学部附属病院 薬剤部)
- P10-5 緩和ケアの専門性を有する薬剤師の育成～東京都病院薬剤師会の取り組み～
舛岡 由紀子 (東芝病院 薬剤部)
- P10-6 薬学教育における「臨床の死」の教育について(第2報)
串田 一樹 (昭和薬科大学 医療薬学教育研究センター)
- P10-7 薬剤師のための緩和ケアコミュニケーションスキルアップへの取り組み方法の検討
小西 洋子 (京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部 薬剤部)
- P10-8 これからの緩和医療に関する薬剤師のありかたについて
小西 洋子 (京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部 薬剤部)

12. コミュニケーション・心

10月20日(土)

-
- P12-1 携帯電話端末を使用した患者と医療をつなぐ緩和ケアコミュニケーションシステムの構築
井手口 直子 (日本大学 薬学部 ファーマシューティカルコミュニケーション学)
- P12-2 オピオイドの患者向けパンフレットの作成とそのアンケート調査
八木 洋介 (市立札幌病院 薬剤部)
- P12-3 患者・医師・薬剤師のコミュニケーション改善による疼痛管理の実例(緩和ケアにおける薬剤師の処方設計関与の有用性について)
山村 康比古 (東京都立府中病院)
- P12-4 オピオイド製剤が初めて処方された患者を対象とした情報提供用冊子の作成
佐藤 哲 (静岡がんセンター 薬剤部)
- P12-5 エビデンスとナラティブがもたらす緩和ケアにおける「前向き」医療
草間 美嘉 (千葉大学大学院 薬学研究院 高齢者薬剤学)

ポスター発表

10月21日(日) (展示) 10:15~16:15 (討論) 13:00~14:30

体育館

1. 緩和ケア領域における分析・アセスメント

10月21日(日)

- P1-18 緩和ケア病棟におけるオピオイド製剤を中心とした薬剤使用状況について
江草 徳幸 (福山市民病院 医療技術部 薬剤科)
- P1-19 調剤併設型ドラッグストアにおける医療用麻薬に関する処方実態調査
城戸 充彦 (株式会社 スギ薬局)
- P1-20 愛知県がんセンター中央病院におけるオピオイド投与の変遷
(オキシコドン速放性製剤導入による選択肢の広がり)
立松 三千子 (愛知県がんセンター中央病院 薬剤部)
- P1-21 京都府立医科大学附属病院におけるオキシコドン速放製剤実態調査
小西 洋子 (京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部)
- P1-22 EQ-5Dを用いた緩和領域における薬剤経済分析の評価方法の検討
伊勢 雄也 (日本医科大学付属病院 薬剤部)
- P1-23 経口モルヒネ製剤における効果と安全性、患者のQOLについての前向き研究
(24時間持続製剤と12時間持続製剤の比較)
井岡 達也 (大阪府立成人病センター 検診部 消化器検診科)
- P1-24 医療用麻薬管理マニュアル改訂に伴う院内の管理業務変化に関するアンケート結果
縄田 修一 (神奈川県薬剤師がん疼痛緩和研究会)
- P1-25 緩和ケア医療の充実に向けたオピオイド使用の現状に対する意識調査
赤井 那実香 (神戸学院大学 薬学部 臨床薬学研究室)
- P1-26 モルヒネによる条件性恐怖の文脈依存的低減効果
北村 元隆 (関西学院大学 文学研究科 心理学研究室)
- P1-27 治療拒否事例に対する緩和ケア参入の可能性: 医療訴訟判例から探る
鈴木 順子 (北里大学 薬学部)
- P1-28 緩和医療における医療機器の安全性確保に関する研究 (その1)
—PCAから溶出する可塑剤測定—
伊藤 里恵 (星薬科大学 薬品分析化学教室)
- P1-29 緩和医療における医療機器の安全性確保に関する研究 (その2)
—代替可塑剤TOTMの測定—
中村 博子 (星薬科大学 薬品分析化学教室)
- P1-30 がん疼痛緩和治療のための統一したマニュアル作成を目的としたがん患者のための疼痛管理
に対する医師の意識調査結果
金銅 葉子 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 薬局)
- P1-31 当院における“麻薬使用マニュアル”作成の試み
鈴木 慶介 (東京北社会保険病院 薬剤室)
- P1-32 オピオイドと併用薬剤の処方調査
—疼痛コントロールマニュアル配布前後の変化について—
玉井 宏一 (愛媛県立中央病院 薬剤部)

P1-33 入院患者に対する医療用麻薬の自己管理への取り組み
吉澤 一巳（日本医科大学千葉北総病院 薬剤科）

2. オピオイドローテーション

10月21日(日)

- P2-9 フェンタニルパッチから塩酸モルヒネ持続静注へのオピオイドローテーションにおける薬物動態の解析
阿部 伸也（あおもり協立病院）
- P2-10 モンテカルロシミュレーションを利用したモルヒネ及びフェンタニル注射薬の効力比較の試み
湯浅 周（名古屋記念病院 薬剤部）
- P2-11 塩酸オキシコドン複方注射液の使用経験
原田 亜希子（市立秋田総合病院 薬剤部）
- P2-12 口腔底がん患者においてオピオイドローテーションにより良好な疼痛緩和が得られた一例
阿部 誠治（昭和大学病院 薬剤部）
- P2-13 肺がん患者の鎮痛、鎮咳に対するオキシコドン及びモルヒネの効果と、これらのローテーションに関する症例報告
水野 靖也（愛知県がんセンター中央病院 薬剤部）

3. チーム医療

10月21日(日)

- P3-12 日本医科大学付属病院緩和ケアチームにおける薬剤師の役割
須賀 理絵（日本医科大学付属病院 薬剤部）
- P3-13 緩和ケアチーム発足後の活動状況と今後の課題
中村 益美（埼玉県立がんセンター 薬剤部）
- P3-14 当院におけるオピオイド製剤使用状況の推移と緩和ケアチームの関わり
小宮 幸子（横浜市立大学附属病院 薬剤部）
- P3-15 多職種地域連携における薬剤師のあり方 ～緩和ケアのテーマを通じて～
川出 義浩（名古屋第二赤十字病院 薬剤部）
- P3-16 緩和ケアチーム発足後の評価
寺町 真理（名古屋第二赤十字病院 薬剤部）
- P3-17 当院における緩和ケアチームの活動～服薬指導を通じての薬剤師の関わり～
山岡 明美（宮崎社会保険病院 薬剤部）
- P3-18 緩和ケアチームの活動を通して～受動的から能動的へ～
戸井 千紘（生長会府中病院 薬剤科）
- P3-19 天理よろづ相談所病院における緩和ケアチーム発足の経緯
杵崎 正典（天理よろづ相談所病院 薬剤部）
- P3-20 薬剤師の立場から見た当院緩和ケアチーム活動の現状と課題
栗原 稔男（社会保険紀南病院 薬剤部）
- P3-21 当院の疼痛コントロールの現状と課題 —緩和ケアチームに関わる薬剤師の視点から—
三好 京子（独立行政法人国立病院機構四国がんセンター 薬剤科）
- P3-22 外来でオピオイドを使用している患者のフォローについて
林 昶り子（済生会横浜市南部病院）

- P3-23 緩和ケアチーム発足後まもなく処方支援にかかわった2症例
濱中 努（新日鐵広畑病院 薬剤部）

4. 薬物動態

10月21日(日)

- P4-4 がん疼痛患者におけるオキシコドン母集団薬物動態解析
小松 敏彰（北里大学病院 薬剤部）
- P4-5 モルヒネのグルクロン酸抱合阻害による薬物間相互作用の予測
原 祐輔（金沢大学医学部附属病院 薬剤部）
- P4-6 UGT1A 分子種によるモルヒネのグルクロン酸抱合代謝
大野 修司（星薬科大学 生化学教室）
- P4-7 塩酸モルヒネ徐放錠(ピーガード®)の残留濃度
清水 加奈子（東京女子医科大学病院 薬剤部）

5. 副作用

10月21日(日)

- P5-6 オピオイド導入時における副作用対策の評価
土佐 直子（労働者健康福祉機構関西労災病院 薬剤部）
- P5-7 オキシコドンの鎮痛効果発現用量に対する各薬理作用発現用量の比較
伊藤 久則（塩野義製薬 創薬研究所）
- P5-8 インターロイキン-2 製剤による遷延性黄疸を認めた進行腎臓がんの1例：副作用チェック能力の重要性
吉本 鉄介（社会保険中京病院）
- P5-9 オピオイド鎮痛薬の副作用防止薬によりアカシジアを発現した症例
宮田 広樹（日本医科大学付属病院 薬剤部）
- P5-10 オピオイド使用患者における有害事象発現に関わる要因の解析
殿塚 早百合（日本医科大学付属病院 薬剤部）
- P5-11 各種医療用麻薬がオピオイド受容体に結合した後のシグナルの多様化が耐性・副作用発現の違いを生む
上園 保仁（長崎大学大学院 歯薬学総合研究科 生命医科学講座 内臓薬理学）
- P5-12 既存の鎮痛薬の副作用軽減のためのドラッグデザイン
藤井 秀明（北里大学 薬学部 生命薬化学教室）
- P5-13 β -エンドルフィンの副作用軽減のための新規オピオイドリガンド合成と設計
渡邊 晃生（北里大学 薬学部 生命薬化学教室）

6. 鎮痛補助薬

10月21日(日)

- P6-11 札幌厚生病院におけるオピオイドおよび鎮痛補助剤の使用動向とその評価
鎌田 不二子（JA 北海道厚生連札幌厚生病院 薬剤科）
- P6-12 当院におけるオピオイド開始時のNSAIDs使用状況の調査
加藤 秀子（佐世保市立総合病院 薬剤科）
- P6-13 がん性神経障害性疼痛におけるガバペンチンの有効性と安全性の評価
高田 慎也（国立病院機構北海道がんセンター 薬剤科）

- P6-14 がんに伴う神経障害性疼痛に対するギャバペンチンの使用状況
片岡 智美（静岡県立静岡がんセンター 薬剤部）
- P6-15 マウス脊髄損傷後に発症する機械痛覚過敏に対する gabapentin および pregabalin の緩解作用
大野 琴（名古屋市立大学大学院 薬学研究科）
- P6-16 モルヒネ誘発ドパミン関連行動に対する非定型抗精神病薬アリピプラゾールならびにペロス
ピロンの有用性
武井 大輔（星薬科大学 薬品毒性学教室）
- P6-17 神経障害性疼痛における脊髄内ミクログリアの役割
吉田 拓也（星薬科大学 薬品毒性学教室）
- P6-18 Prostaglandin 受容体作動薬ならびに拮抗薬の鎮痛薬としての有用性の検討
鈴木 雅美（星薬科大学 薬品毒性学教室）
- P6-19 ペプチド性鎮痛薬 amidino-TAPA の特性
溝口 広一（東北薬科大学 機能形態学教室）
- P6-20 薬剤師からの薬物療法提案により改善した神経因性疼痛2症例について
仲川 三春（香川県立中央病院 薬剤部）
- P6-21 オピオイド鎮痛薬の嘔気・嘔吐に対する抗ドパミン系薬剤と抗ヒスタミン系薬剤の有効性比較
加藤 あゆみ（日本医科大学付属病院 薬剤部）
- P6-22 大腸癌の終末期における疼痛コントロールでオピオイドに加え放射線療法・抗がん剤の内服・
神経ブロックの併用によりコントロールした症例
須田 澄子（佐野厚生総合病院）
- P6-23 ダカルバジンによる血管痛緩和にリドカイン貼付薬（ペンレス®）が奏効した1症例
佐野 元彦（埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部）
- P6-24 NR2B サブユニット構築型 NMDA 受容体拮抗薬 ifenprodil の
morphine 鎮痛補助薬としての有用性
加藤 英明（京都府立医科大学 法医学教室）

7. 緩和ケアの実践とその評価

10月21日(日)

- P7-7 外来患者・家族に対するオピオイド服薬指導の重要性
～当院における活動報告と今後の課題～
芝崎 由美子（岡山済生会総合病院 薬剤科）
- P7-8 緩和医療過疎地域での薬剤師の役割～その現状と課題～
白川 治子（倫生会みどり病院 薬剤部）
- P7-9 一般病院における緩和ケアの取り組みと薬剤師の役割
姉崎 千津子（医療法人財団新生会大宮共立病院）
- P7-10 がん疼痛の薬物療法における薬剤師の取組みとその介入評価
上田 宏（市立伊丹病院 薬剤部）
- P7-11 外来患者のための医療用麻薬服薬指導体制の構築
北岡 晃（済生会横浜市南部病院 薬剤部）
- P7-12 呼吸困難感を訴える患者の対応における看護師の判断に関する分析
嶋中 ますみ（済生会横浜市南部病院 看護部）

P7-13 名古屋大学医学部附属病院での疼痛緩和治療における薬剤師の活動報告
宮崎 雅之（名古屋大学医学部附属病院 薬剤部）

8. 在宅医療

10月21日(日)

- P8-6 在宅医療における薬局薬剤師の取り組み
菅原 敏江（ファーマライズ株式会社）
- P8-7 地域医療連携における薬剤師の関わり
－悪性腫瘍患者の在宅中心静脈栄養法症例を通して－
今井 視保子（名古屋第二赤十字病院）
- P8-8 地域医療に根ざした緩和ケア支援チームの活動
～多発性骨髄腫患者を在宅ケアに導いた1例～
生島 五郎（松戸市立病院 薬局）
- P8-9 在宅患者の緩和ケアに、地域の診療所や訪問看護ステーションと連携して訪問活動をしている
薬局の経験から
田中 律子（(株)メディックス 柳原訪問薬局）
- P8-10 在宅緩和医療における薬局薬剤師の関わり
天方 奉子（薬局セントラルファーマシー長嶺）
- P8-11 在宅緩和医療を考える会での取り組み
脇田 雅子（ひなた調剤薬局）
- P8-12 「ホスピス・ケア退院支援システム」構築への検討
曾根 敦子（東海大学医学部附属大磯病院）
- P8-13 在宅患者訪問薬剤管理指導の現状と問題点
山丸 淳司（やままる薬局）

9. 痛み(オピオイド・レスキュー・管理)

10月21日(日)

- P9-13 難治性癌性疼痛に対する持続硬膜外オピオイドの有効性
井上 大輔（東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科）
- P9-14 フェンタニルパッチの適正使用の検討
輪湖 哲也（日本医科大学付属病院 薬剤部）
- P9-15 硬膜外大量モルヒネ持続投与により疼痛緩和が得られ、在宅移行した1症例
松本 幸恵（東京女子医科大学病院 かんわけあちーむ）
- P9-16 オピオイド製剤の適正使用への取り組み ～当院におけるレスキュードーズの調査～
稲角 利彦（神戸市立医療センター 中央市民病院）
- P9-17 喘息既往患者のがん疼痛治療について～フェンタニルパッチ増量後に喘息発作を起こした
症例を振り返って～
萬谷 摩美子（藤沢市民病院 薬局）
- P9-18 長期大量オピオイドとミダゾラム併用に関する検討 ～モルヒネおよびミダゾラムの増量で
持続的な苦痛の緩和が得られなかった症例を振り返って～
萬谷 摩美子（藤沢市民病院 薬局）
- P9-19 オキシコドン速放製剤(オキノーム散 0.5%)における経管投与法の検討
府川 美沙子（北里大学病院 薬剤部）

- P9-20 オピオイドレスキュー簡易変換表と処方変化に関する検討
上島 健太郎 (国際医療福祉大学三田病院 がん治療支援・緩和ケアチーム)
- P9-21 麻薬性鎮痛薬である Morphine、Fentanyl および Oxycodone の抗侵害作用の解析について
谷内 理枝子 (東北薬科大学 機能形態学教室)
- P9-22 Methadone の上位中枢における抗侵害作用について
吉岡 麻也 (東北薬科大学 機能形態学教室)
- P9-23 タイ王国麻薬性薬用植物 *Mitragyna speciosa* アルカロイドとモルヒネの鎮痛作用と精神依存性
形成能の評価
松本 健次郎 (城西国際大学 薬学部 薬理学)
- P9-24 慢性疼痛治療標的としてのグリア型グルタミン酸トランスポーター GLT-1 に関する研究
前田 早苗 (京都大学 薬学研究科 生体機能解析学分野)

11. 症状コントロール

10月21日(日)

- P11-1 がん患者における健康食品・サプリメントの利用状況に関する病棟薬剤師の初回面談時の
情報
伊藤 由紀 (名古屋第二赤十字病院 薬剤部)
- P11-2 プレアボイド報告にみるがん疼痛緩和への薬剤師の介入
松本 高広 (東邦大学医療センター大森病院薬剤部)
- P11-3 医療現場のアロマセラピー ~患者の QOL 向上のためにできること
村松 真樹 (スマイル薬局)
- P11-4 透析に伴う臨床症状の発現と対応
岡野 善郎 (徳島文理大学 薬学部 医療薬学教室)
- P11-5 終末期癌患者に対する輸液治療についての検討
中西 晶子 (市立池田病院 薬剤部)
- P11-6 耳鼻咽喉科頭頸部外科領域における癌性悪臭に対するメロニダゾール軟膏の評価
松岡 綾 (愛媛大学医学部附属病院 薬剤部)
- P11-7 胸部悪性腫瘍治療中の味覚障害に対する亜鉛製剤の効果
中多 陽子 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 薬局)
- P11-8 口腔内滞留性の向上を目的としたアムホテリシンB含嗽液の試作
山下(金内) 美妃 (北海道薬科大学)

12. コミュニケーション・心

10月21日(日)

- P12-6 コミュニケーション困難な精神発達遅滞事例へのオピオイド導入コンサルテーションについて
佐生 明雄 (津軽保健生協 健生病院 薬局)
- P12-7 がん患者の「安心」への関わりに向けて
新行内 健一 (利根中央病院 薬剤部)
- P12-8 コミュニケーション能力とは何か？
柳橋 秀行 (利根中央病院 薬剤部)
- P12-9 頭頸部がん患者における QOL 向上にむけての薬剤師の役割(事例紹介その1)
高瀬 久光 (福岡大学病院 薬剤部)

P12-10 頭頸部がん患者における QOL 向上にむけての薬剤師の関わり(事例紹介その2)
高瀬 久光 (福岡大学病院 薬剤部)